

バストス週報

Nº 330 BASTOS 27 de MAIO de 1956

C.P. 112 sr. M. Oda

Paulo A. P.

第三百二十号
昭和廿一年
五月廿七日
發行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188.
C. PII 2

BASTOS

誌
一ヶ年
80\$一

蘭は天井知らずの
好况か

数年来停頓していた薔薇が最近とみに活潑な動きを見せはじめ、農家を喜ばせている。勝手なことをいうようだが此の好景がもう少し早く来てくれたら巴士の養蚕家の腰も落ち、と、軒轅者のか何%かをといとめることができるであろう。しかし農家各位が此の薔薇であろう。上昇の依つて来る處を認識されるなどは、一時的な感情の動搖を整理して必ずや手馴れた養蚕業を継続されることと思われる。それは各農家の利益でもあり、引いて^本養蚕村といわれろバストスを養蚕王国へ引上げよすがともなるであろう。

る。さく所によると聖布々場の現在生
來相場は上物はキロ一コントを上廻
てゐる。もし外国品が入る場合は五倍
品力テゴリヤ八十五名旨換算で現行關
稅の八〇%増し、且つ重價稅を課せられ
るようになると研究中といふから、恐らくき
口五三シトにもなるから關稅障壁にぶつ
かつてはどうてい輸入できまい。内國生
糸の保護政策が結実した結果と見るべ

去る五月十四、五日聖市 FAIR 木部で開催された全國絹糸・織物業者大會に於てハウリス・タマ糸業協会会长ビザ氏は長時間に亘つて絹糸界の世界情勢を説明の上、伯國養蚕業の将来性と言及し、一人でも多く蚕を飼つて不足しつつある伯國業界への協力を要請したといわれた。右に關し、當地橋本蚕種製造場主橋本光義の意見を叩いて御参考に供する。

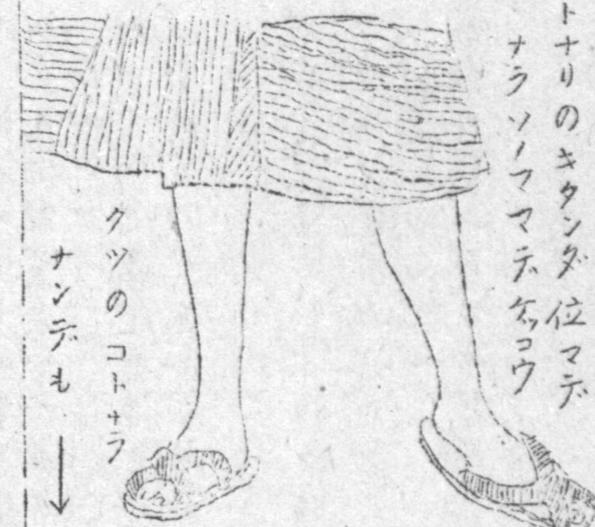
○世界蚕糸業界の将来性を考へると
農家の養蚕業は洋々たる發展性
があるといえる。
最近滿価の値上りは予想外で外見取引
は既に百針を突破し、天井知らすのき
ちがい景氣を呈してゐる。生糸も順次
好調を呈してはいるが、価格に順応しない
いないうきみがある。



Sapataria Hayakawa

家の中の おはきもの

トナリのキタシタ位マテ
ナラソノマ云々コウ



靴化店

Debulha de Milho
Irie Nizawa

秋空高く 天氣も定つたようです
ミーリヨ 脱粒の好季節です
御用命は左記へ

野沢一衛
フロリダペイシヨウト街
古跡ミユイエ店となり

日曜も夜間も遠近出張

ると、戦後十年にして生糸の生産は年々増加の一途を辿り一九五五年（昨年）度は約三十万俵（一俵十六貫）約一億九千万キロに達したが今後数年ならずして或ひは戦前の生産量にも達するであろうとう。尚去る三月二十七日東京会館で行われた世界絹糸業者理事会談のこぼれ話をかり例を拾あう。

0. 世紀の絹織物業界の生糸に対する要求は非常に高まりつつあり、他織組大十分対抗できるものである。故に業者各々一團となり強力を宣伝力をもつて競争があるとの意見開陳された。本場たる日本側が今夏の如く絹糸に開心を向けること、逆に日本側が絹糸の再認識を始めた形で、吾々きく者もつては、その形勢誠に痛快至極であつた。更に同日の議題中の主なるもの二、三にて意見は、系価安定値維持があつた。佛國代表は此の一年間系価が安定し貞う処が大きかったと述べてゐる。米國代表は、系価の値下りを来たす場合、機屋を始め云々トはもとより小商人に至る迄、抱えこんでいるストラッカにより莫大な損失を蒙る二とを指摘し、萬一系価を一時落せしむるよう信頼を失うばかりでなく、将来に於ける生糸の消費をおじやかすことにならぬであろうと力説した。

3. 安い化學織維に対するには、絹自身の持つ品格の絶対性、天然の艶など、警告の会談に出席した河野農相は現在の安定帶は絶対に動かない。

1. 現在の安定帶は絶対に動かない。
2. 滅金の増強によつて系価安定を守るには必ず

と強い感銘を与え尚追加して、農民（日本の）は海外で将來生糸が賣れるかどうか大就いて戦後自信を失つていた。それ故品質改良に乗り出さなかつた。しかし今後も充分売れると見透かされ、今日御集りの皆様の御希望を生產し、次回再び皆様が日本を訪問されると、日本政府は御約束の如く御迎へすを充分添うことが出来、又良質の生糸を生產し、次回再び皆様が日本を訪問されると、日本政府は御約束の如く御迎へすことを知ると同時に、終戦後生糸が、これほど重要なものと考えず又、最も到底世界の需要を充たすことは不可能である。御歓迎され、今後日本がどれ程生産して此れで不足の場合は追加予算を以て対処する考である。

と對言されたのである。

上記の事柄は、日本のニュースであつが直接間接にアラジルの紡糸業界にひびいて来る。吾々の養蚕業に影響を及ぼさない筈はない。今や世を挙げての生糸販賣時代に入つたともようである。

つゞいて次号には極東蚕糸業状況を示す

つたえます。

材料提供者 橋本氏

母の日（五月十三日）

七十六翁 新津牛丸

母刀自ら愛の恵みと育み
己が身かもへば有難きが
ははそ善乃露の恵みの間
育くも子等のさちをこそ思へ

少年野球 ハウリスタ線

予選大會

来る七月十五日ルツセリア球場に於て
オーラス、バストス、ルセリア、三球団
に於てリーフ戦が行われる。そして此
り勝者がハ・線代表として全伯大会へ出陣
する二とになる。

ハアリフヌ新田主保ア自立、三
野球大会は来る七月廿七、廿八、廿九日聖重
ニ於て開催され。その晴天の代、来たら
人とバストス少年軍りせ筋人たちは、十五
日は大勢応援に来てくれ工と呼ひかりて
いる。

来る五月二十七日午前四時土發バスト
ス少年野球軍は世話を人に連れられて、昨
年來ハして來れだ、口線アラベスヒ
答礼の意味で練習試合に行く。
アドウセ揉まれに行くのさしと世話を人
口では云つていろが、ひそかにネタバキ
といがわよくば一ト迄ふかせんとたくら

パリオリンピック選手会

バーストス挙行されん
来る七月七、八日両日バーストス入植祭に
ハウリスタ代表選手詮術の争選大会が開
かれる模様である。
まだ確定的ではないが六月二十四日曜の代
表会まで決定を見ることになつている。
もし、この日にカラウンドが空いて居れば少
年野球世話人はツロ縦代表マッシャード
軍を招いて一戦を交えたいと云つている。

本派ホトトギス
バスズ俳句專門學院 新学期七月一日
校長 南天子

医師の診断による眼鏡作成
めざまし・寝中時・腕時計

修理確定譲り
指輪アリアンサ

費金屬

Nossa Relojaria
AV. TAM 0105 785 C.P 146

ΔV. TAMOI

ナツハンナ
サボンナ

ノツサ時計店

上島製粉工場 売出し

東ビトリオ氏市議辭任

後任はジョンバチスタ氏決定

バストス市議東ジトリオ民はマトグロ
ツツ州ドラー・ドス市に進出の為め不日ム
サンサする事に在る模様で、市会議員
の就職を辞任した。P.S.P補決のジョン
バチスタ氏が後任として就任を承諾した
との事である。同氏はカルトリリヨを経
験の方は、ひとまかせでサンジョセドスカル
ボスへ常時出張していろか市議に就任す
ると役場の方も何とかバンタージエンがあ
るので就任を喜んで居る由

危つた。たゞちやん！
去る五月十五日午後四時頃市内アスマ
ル街東道商店前で守越の末娘たゞちやん
(六才)が遊んで居ると二名え・ツパン
のさる云々ケヌタ氏の車が徐行してきた
。此の車アナガ鳴らず、ブレーキが
きかず、あつと云う間にたゞちやんをは
ねこぼし前輪にかけてしまつた。
近所總出で車を後退させて引き出したが
口から血を吹いていたのでしまつた。や
られ大かくと半死の人もあわくなつた相
だが、這のよい子で左腕の骨を碎いたの
みで生命に別状なかつた。もう少しどう
ちえよつていたら危いところであつた。
車の方も注意かんじんだが、平侯の道路
遊びも気をつけないと、とんだことに奉る

吾々に なじみの多い

ブラジルの薬草

6

日時 五月三十日午後七時
会場 バストス産業會館

十 日本名 ガマ 蒲黄(花粉)
学名 *Typha latifolia* L.
香蒲科 *Typhaceae*

香蒲科 Typhaceae
水烛 *Typha latifolia* L. var. *orientalis*.

TANIS.

佛教講演會

尚当日は講演の外
有益な面白い
幻燈スライドを

説明入りで上映いたします

ご近所あさそい合わされ、おでかけ
下さる様ご案内申上申付

八
大
不
死
佛
教
會

笄の種実があります。アラジルでも野生水湿地をうづめであるのを見ます。薬用にするものは蒲黄といい花粉で、10%位の脂肪油を含む。花粉を潤末へいたこキ島の鶴では今も食用にします。支那日本でも古くから食べた。我々の祖先はニの穂の成熟した織維を具めナトシのシンにしたり、金と石とを擦り合せて火口ホウキとし珍重したものである。

大きくなるときの

蒲黄(ホワウ)は神社仏閣家伝薬の主薬として用いられていたが、傷寒と一緒にすることは子供の読本あるイナバの白兎の話をあらとうり、白兎がワニサメに毛をぬかれで赤裸になつたとき大国主命が之を見てガツの花粉をつけ蒲綿にくるま毛と教え、その通りにしたら治つたという話が示すところです。

君の穂を薄棒といいます。それから地下茎の軟い所はマコモ等と同様、淡白なうちにもよい味をもつてあります。それからこれのよいことは他の野菜並の栄養価をもつている事です。私は茹でて酢ミソにしたり煮食、濃淡漬物とれも中々すてがたい味と思ひます。

民間薬としては風邪の時や發汗、咳止め殊にゼンソクの咳止に花粉を煎いてのむと特効があろといわれています。

又花粉は子供らのケガ位なら血止めの妙薬となります。

戦後ヒカケノ力ヅラの胞子を集めましたがあがマの花粉と共に丸薬をこしらえ方時の衣にも消費された様でした。ヒカケの力ヅラの胞子は石松子といって日本の奇方薬であります。

日本名 ビワ 薔薇科 (バラ)
学名 *Prunus japonica*, *Kondo*
Rosaceae

21

語源はビワは葉の形が琵琶に似てゐる
といひ出たもの。
当地に於ても各所に栽培されて居ります
が日本薬局方の枇杷仁は種子であつて
アミグリリン醣体を含むから性質も杏
仁水と不被瘧藥として用ひうる。生薬の
仁水は既述の如く薑の二とがある。

寫真はアトコメツタへどうぞ

日本では枇杷の花咲く季の暮と、いう様に
花と一緒に咲く山茶花等と同時季。
霜や寒さの害を受けて收穫の減る地方も
あるが田中ピタ等ニロタカアモリには在
れべからずよい味をもつて居ります。
年末年始梅の枯木の苦心よりもの枇杷
茶の花の自然木、生花の材料としては大
麥風柑なもりです。 (ウイーク)

会場 ハスドル産業會館
講師 西本願寺(マリヤ駐在)
藤本開教師
佛教講演會
尚当日は講演の外
有益な面白い幻燈(スタイル)を
説明入りで上映いたします
ご近所あそそい合わされ、おでかけ
下さる様ご案内申上ります
五月十五日
ハスドル佛教會

でも二人や三人生長の家の雑誌を立つ
ている人はありましたが、そう目立つ

た運動はなかつたようですが、

そう目立つ

司「キリスト教が農村に入り込んだよ

うです」

司「キリスト教が農村に入り込んだよ

うです」と思ひます。日本全体として戦後半

リストス教が大へん進出して、いること

も事実でしようが僕ら農村人の目には

映りませんでしょ

うです」と思ひます。

司「青年層では宗教の事は余り問題にも

何が思ひ出になるようお詫びあります

松岡「昭和廿八年晚夏船号第〇号が九州

き北上して北九州一円を荒したことが

ありました。僕はその時保安隊に店で

建設大隊に属りました。元建設大隊

が出て出發したのです。その時色々な

道具トラクターの機械類も一夜

一旦元隊にもどって間もなく心意隊

になり、ましだが保安隊時代は中々面白

い話があります。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 団結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく

湖附近に居た米兵の中黒人兵が良家の娘

アーネストへ一町民が自分の息子が親不孝で

長の息子もピストル撃ち起したりして

他人に説教するところ

と

中々堅い決心の程を見せた。

次第

紛失届

PERDIACANETTA MARCA SHERIFF'S

萬年筆シニアフル(カッペなし)及同商業手帳の帰途五月十七日夜落しました。

御拾得の方はポント前浮田金物店並御手数乍ら御用掛下さい(宣傳謝)

新入荷御しらせ

浮田金物店

Ferraraens Uchita

- ラステーラ(12齒 14齒)
- ハサミ 10CT. (印) ポント前
- ハサミ 8 CT. 7 CT. (印)
- カニベツナ(鋸びない小刀)
- アルミ製品各種
- ボーロ焼
- マルミツタ(二重、三重)
- パッサドール(マロ用ガロ用)
- アッサデーラ(丸形角形)
- 安くて良い品〇〇〇

田

岡田「富士山麓は御承知のように米軍の墓地にされ、よく問題を起しますが、山中八歳のうちからかわりと云ふのは、實にいいました。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくなりました。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくなるので、このたのと云ふのは、實にいいのがあります。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 団結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃたが戦争に行く様な張り切り方で

いた。僕の隊は主力を門司の救済に当

り可なり、終戦後のドサクサでもうかり

料仕入れもだんく 团結となりとく材

八年的うちからかわりと云ふのは、實に

いいものでした。米兵が皆わるいわけではなく、善良な兵士も多く、このけぢめが大きくな

ったので、このたのと云ふのは、實にいい

がありません。僕はその時十八でさ

司「今度折りを見てその話をして下さい

中村「私はハヤブサ戦闘隊に少年兵として

入隊していだと前に申しましたが僅か

三ヶ月で終戦となり、解隊後は山口県

でしゃた

Continuação (nº 5)

SEM FAMÍLIA

- Hector Malot -

Enquanto o meu homem refletia no que devia fazer, juntaram-se ali outros operários e decidiram que se devia levar a criança ao comissário da polícia. Mas como no escritório do comissário fazia muito calor e o choro continuava, lembraram-se que teria fome e foram chamar uma vizinha que quisesse dar-lhe de mamar. Ele deitou-se-lhe ao peito; estava de certo esfomeado. Em seguida despiram-no em frente ao lume.

Era um belo rapaz de cinco ou seis meses, rosado, grande, soberbo; os cueiros e a roupa em que vinham embrulhado mostravam que pertencia a família rica. Era então uma criança que tinha sido roubada e logo abandonada. Pelo menos foi o que o comissário explicou. Que haveram de fazer dela? Depois de ter escrito tudo o que o Jerônimo sabia e também a descrição da criança e das roupas que não estavam marcadas, o comissário disse que ia mandar para o hospício dos engeitados, sem niguém dentre todos que ali estavam, quisesse encarregarse dela; os pais, que de certo o iam procurar, recompensariam generosamente as pessoas que a tivessem tomado o seu cuidado. Nisto o Jerônimo avangou e disse que de boa vontade se encarregava dela; deram-lha. Eu tinha justamente nessa ocasião com um filho da mesma idade, mas não era nada difícil para mim criar dois. Foi assim que fiquei sendo tua mãe.

- Oh! não me mandes para o hospício, gritei agarrendo-me a ela; mãe Barberin, não me mandes para o hospício; pego-te! Não meu filho, não has de ir. Eu arranjarei isso. Jerônimo não é um homem mau, verás; é o desgosto, é o medo da necessidade que o transnornaram. Havemos de trabalhar, tu também has de trabalhar. Deixei de me ter beijado fez-me voltar para a parede. Felizmente não veio tão cedo como tinha dito e o sono chegou para mim antes dele. Dormi sem dúvida toda a noite debaixo da impressão do desgosto e do receio, porque no dia seguinte, pela manhã, assim que acordei, a primeira coisa que fiz foi apalpar a cama e olhar em volta de mim, para ter a certeza que me não tinham levado. Toda a manhã Barberin não disse nada, e eu comecei a imaginar que ele tinha abandonado o projeto de me mandar para o hospício. A mãe Barberin tinha de certo falado; tinha-o decidido a ficar comigo.

Mas ao dar meio dia, mandou-me por o meu boné e segui-lo. Assustado voltei os olhos para a mãe Barberin, implorando o seu auxílio; mas ela, as escondidas, fez-me um sinal para que obedecesse e ao mesmo tempo um gesto com a mão, que me animou: não havia nada a recear. Então sem dar resposta, puz-me a caminho atraz de Barberin. Da nossa casa à aldeia, a distância é muito grande, da bem para uma hora de marcha. Essa hora passou sem que ele me dirigisse uma só vez a palavra. Ia adiante, de vagar, coxeando sem fazer um único movimento com a cabeça, e de tempos a tempos, voltava-se para traz para ver se eu o ia seguindo. Foi assim que entramos na aldeia, e toda a gente é nossa passageiro, se voltavam para nos ver, porque eu parecia um cão arisco que se leva preso.

Quando passavamos diante do café, um homem que estava á porta, chamou Barberin e convidou-o a entrar. Enquanto Barberin se colava a uma mesa, com o dono do café, que o tirava convicção a entrar, fui-me sentar ao pé do fogão e puz-me a olhar para tudo que estava á roda de mim. No canto oposto ao que ocupava estava um velho de barbas brancas com um fato extravagante e que eu nunca tinha visto. Barberin e o dono do café falavam a meia voz, e eu percebia que se tratava de mim. Barberin dizia que eu tinha vindo á aldeia para me levar ao "maire", afim de que este pedisse ao hospício para lhe darem uma pensão, pele trabalho de me ter em casa.

Enquanto eu observava o velho com curiosidade e espanto, Barberin e o dono do café falavam a meia voz, e eu percebia que se tratava de mim. Barberin dizia que eu tinha vindo á aldeia para me levar ao "maire", afim de que este pedisse ao hospício para lhe darem uma pensão, pele trabalho de me ter em casa. Era então isso que a mãe Barberin tinha podido obter do marido, e compreendi imediatamente que se Barberin achasse vantagem em termo consigo, eu não tinha mais nada a recear.

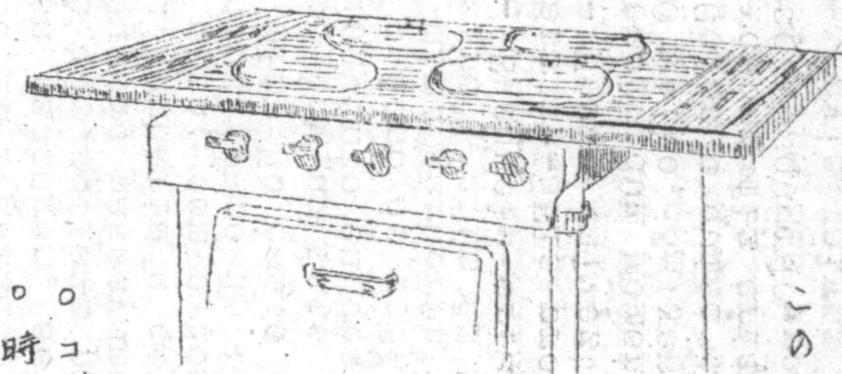
O velho sem o parecer, escutava também o que se dizia; de repente, estendeu a mão direita na minha direção, e dirigindo-se a Barberin: - E aquela crianga que o incomoda? disse ele com o acento estrangeiro. - Ela própria!

- Havia talvez um meio de se desembaraçar agora já, disse o velho depois dum momento de reflexão, e até mesmo ganhar alguma coisa. O velho, deixando a cadeira, veio sentar-se enfrente de Barberin. Coisa exquisita! quando se levantou, um movimento que eu não pude perceber fez agitar a pele de carneiro: parecia que tinha um cão no braço esquerdo.

(continua) -

- 8

SUPER-GAS 時代です



スヘルガズの特長

このたび私共がスペルガスの代理人を引受けましてから
すでに三十台近くお買上げいただきましたが、皆さまから大
好評で喜んでいたり、いて居ります

スペルガスの特長

普通ガスは十キロ入りが百六十針ですが
スペルガスは十三キロ入りが百八十針で、少し安い
一般にガスは一本二十日乃至二十五日しか保たないと言われますが
スペルガスは四十日を突破した記録の御報告が一買
入右よりありました。

四人位の御家族でしたら皆三十日以上あると申されます
○スペルガスは器物をよごしません
○操作はいたつてカンタン。つまり火配がありません
○コジンニアで働く主婦の時間はスペルガスの使用で半減される
○時は金なりと云います。主婦の時間を生かしましよう

○御買上は現金。又は十五ヶ月の長期支拂たたえじます
は左記で実物ごらんの上、あたがね下さい

ア・ス・ト・バ・シ・ザ・ラ・ン・チ
メ・ル・オ・フ・イ・シ・ナ
阿・部・五・郎

過
問
提
言

振興會社設立の意義

振興會社設立の意義
その構想につけて提言があつた

土地のことを考えて見ると誠にもうだい
ない諸である。

各自が所有してゐる広い土地の内に五
アルケール位良い土地がある筈だ。之に
施肥して土地を肥やし耕作することがで
きる筈である。

このように決心する迄には人の和、精

上にアラジルという國名をつけなくとも
よい程有名だが、そのバストスも時代の
変遷に禍いされ年々入植者が漸減し、バ
ストに移行してゆく勢情をくいとめる事
が出来ないといふ有様である。此處に何
とか更生策を考えなければならぬのが
バストスの現状である。

今ニニに述べんとする振興会社設立の
目的は實にここに在る。伯國は最近荒地
開発法と言う法案を立てて荒地開發に努
めて居るが、それは廣大なアラジルの土地
といえども、このままでは早晚行き詰る時
期がくる。森林を保護せよとスローガン
を立てて奨励して居る。

森林を伐採して文化村文化都市を作る
までのには相当の犠牲を払う。それより既
に造林計画を都市を作成の様に荒地を
開発してゆかべきだ。之が法案には指導
方針もあり、又元の資金も貸して呉れるこ
とにない。

即ち4月運動や、ガット運動のようなら、
のが活潑になつて来なければならぬ。
これによつて「郷土愛」に目醒め、之を
目標として落付いた村を造りて行くこと
が肝要ではないか？ 少くともこれはハ
ストス全体がもつてゐる権利の擁護のた
めにえ是非とも考へなければならぬ問題
ではないか？

では其の振興会社の組織と運営につ
て述べて見ると、会社は当然株式組織と
し広く株式を募集して資本金をつくり、
力論正規の手続を経て登録されるが、創
立然会等によつて既に振興会社の誕生を
見るとする。初論会社の性質上ハストス
に住む人が卒先して株を持たねばならず
ハストスに住む優先権で、おうが村の共
有財産を考え、それから上る利益の配当
を受け方よろに至る。振興会社はおうが
村のものであつて当然发言権と強力な權
利をもつものとなる。此の株も一時とせ

謹 告

小 生 義

シツチオ譲る

場所 ウニオンⅡ区

ニナルケーレス

今般一身上の都合に依り南米銀行を

各戸テに住宅、蚕室あり

九四号(元高島氏)、九五号(元三井氏)

退社する事に相成りました。

桑園五アルキル余、自家用バス

九四号地レンガ建、九五号木造建

顧みますれば過去七ヶ年の長きに亘

何より都合のよいことは斯に近いこと、学校に近い

同行奉職中は公私共に一方なりぬ

ことです。僅か一キロの地点

御愛顧を賜わり大過なく勤め得まし

左記へおいで下さい。

た事は之れ偏へに皆様方の何日に蒙

うぬ御厚情の賜でありまして紙上を

借りて深く感謝申上げます。其の間

当地に残された唯一の金融機関の責

任者であり乍ら、之れを通じ假令接

スオールド五十一型

スラモジスコカレトシ附

的に行せよ、當バースの繁榮に聊か

たりとも寄與し得なかつた自己の努力

力の拙さに今同行を去り行く小生の

心華は皆様の御期待と御鞭撻に弱ふ

事の出来なかつた懶怠の念と悔恨の

情に功なるものがあるのがあります

が、縫た何時の日、か皆様の御厚志に酬

ゆる日のある事を心中深く期して店

の次第であります。小生の後任者と

して聖市より小堀多聞君が着任して

居りますので、同君に対しましても、どう

か私同様の御庇護と御援助とを賜

わります様謹んで御願い申上げます。

終りに当地在住者御一同様の御健勝

と御繁榮の程を表しより祈念致しま

して今後共御交誼給わん人事を切願

する次第であります。

一九五六年五月廿一日

吹 本 次 男

バストス在住者

御 一 同 様

氣候温和、霧のかかる所、地形良好

サンロッキ市は、クインニヨ会社がある所を見た
アドウ其他に適していることを知りません

南米銀行支店前

バストス
代理人

戸 田 源 作

スバラシイ、ヨイ土地

アリマス故オシラセシマス

場所

聖市より(ルツサヌセー)八十三キロ

ソロカバ市より十八キロ、兩市の中間

聖市国道アスファルタードに面せる

面積

二百アルゲルの耕地賣出し

サンロッキ市より十六キロ、所水利便

適作

果樹、野菜、養鶏に適す

地価

一アルケル五〇コント
初年度 半金(五割)入金

二年目 二割五分

三年目 二割五分

何程でも分割して分譲します